資料５－１

特区提案（平成20年11月）

日本における
ナースプラクティショナーの制度化

平成21年6月16日

大分県立看護科学大学
社会医療法人敬和会大分岡病院

1. ナースプラクティショナーとは

2. 「特区」提案の背景

3. 大分県立看護科学大学における
NPの養成教育

4. 何故、「特区」か
裁量範囲を拡大したナースプラクティショナー

5. ナースプラクティショナーの実現
により何が変わるか

ナースプラクティショナーとは

アメリカ・コロラド大学で 1965年に始まった制度

アメリカの1960 年代の
医療・保健を取り巻く環境

- 小児科医および家庭医の不足
- 遠隔地域、都市部の貧困層に対する医療提供の不足
- プライマリケアの提供の不備
- 医療保険制度の導入
- 医療費の高騰
- 看護師（RN）の自律志向　等

アメリカのNPとは

大学院修士課程で教育を受けた看護職

- NPの業務は医師から独立/協力
- 診断・治療ができる
- 検査のオーダーができる
- 薬剤の処方ができる
- 提供したサービスに対して医療費が支払われる
- 個人を対象にしたプライマリケアの提供が中心

アメリカにおけるNPの活躍

急性期NP	婦人NP
成人NP	精神NP
小児NP	腫瘍NP
新生児NP	救急NP
老年NP	学校NP
家族NP	

11領域で約14万人のNPが活躍

NPに対する評価
（アメリカ）

- 医師と同等の質を確保している
- 対象者のNPに対する満足度は上昇している
  とくに、遠隔地域でその傾向が強い
- 薬を処方する割合が低くなった
- 術後の合併症が減少した　等

アメリカ以外の国におけるNP等

医療保健の高度化・先進化
国民ニーズの多様化
看護職の自律志向

↓

看護職の裁量範囲の拡大

- イギリス：処方看護師
- 韓国　　：NP、保健診療員
- フランス：家庭看護師
- 北欧諸国

ナースプラクティショナーとは

生活者の視点に立って、QOLの向上に向けて

ケア と キュア

看護モデルと医学モデルを使ったサービス

特区提案の背景

ー日本でのナースプラクティショナー
の実現を目指してー

医療・保健を取り巻く環境の変化

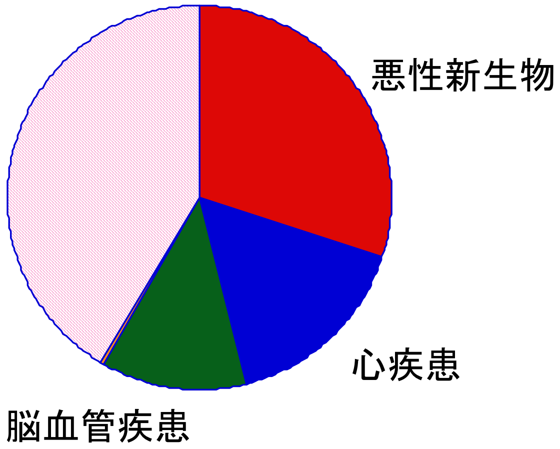
医療の受け手側の変化

- 疾病構造の変化
- 高齢社会の到来
- ニーズの多様化（健康寿命の延伸、QOL等） 等

医療の提供側の変化

- 医療保健サービスの地域格差等
- 医療の高度化・専門化・先進化
- 医療従事者（とくに医師）の不足
- 看護教育等の高度化・専門化　　等

疾病構造の変化／高齢社会
（日本における死因）



（平成20年　厚生の指標）

生活習慣病

―がん、心疾患、脳卒中―

- 予防、健康増進
- リハビリテーションなど
- 治療よりもQOLの向上

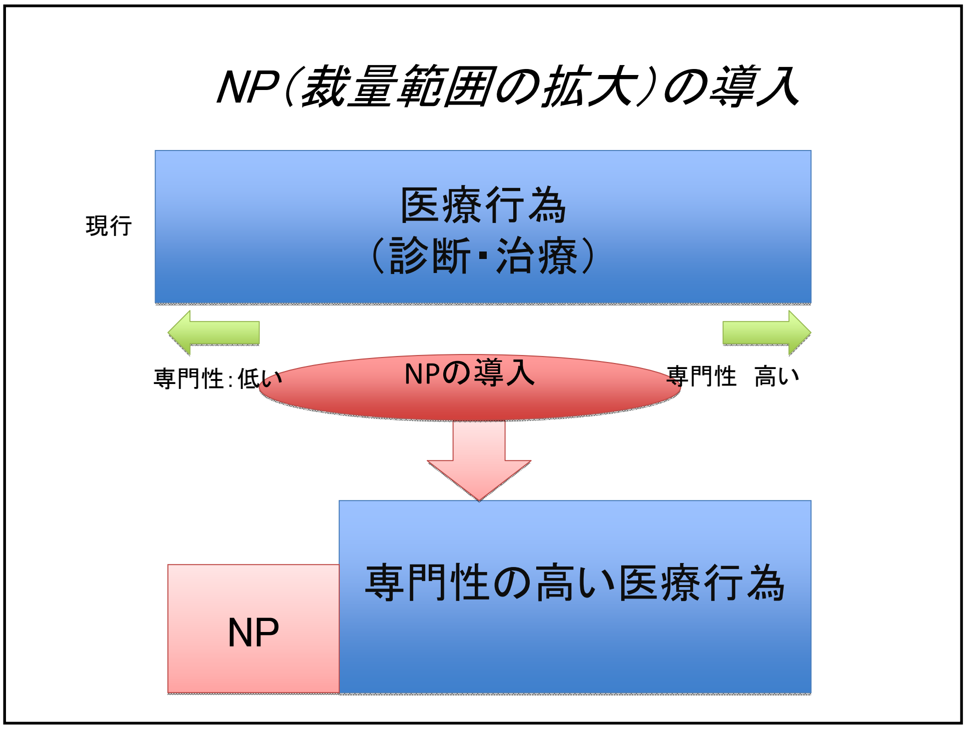
生活習慣等の改善

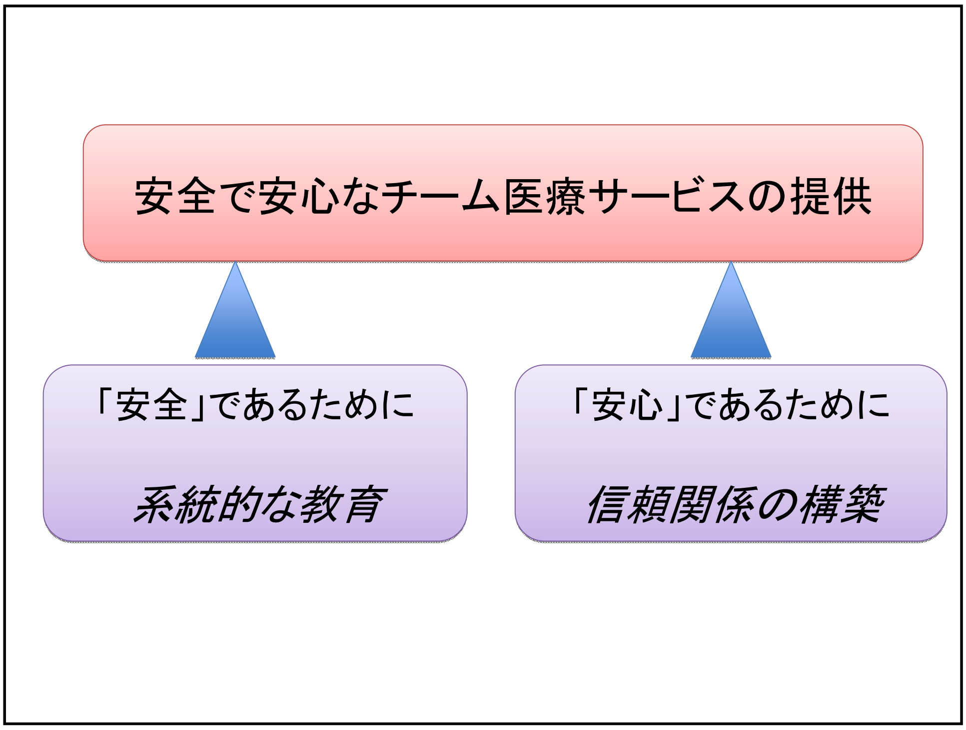
薬物による治療

医療を取り巻く環境の変化

健康増進 疾病予防	早期発見 早期治療	リハビリテーション

・聴診器を用いた診断 ・簡単な血液検査 ・血圧測定　等	→	・画像診断 （超音波、CT、PET） ・血液生化学検査 ・遺伝子診断　等
・投薬 ・大気/安静/栄養	→	・薬物療法/免疫療法 ・遺伝子治療 ・再生医療
医師/看護職/X線技師等	→	・医師, 看護職 ・診療放射線技師 ・OT, PT, 介護福祉士

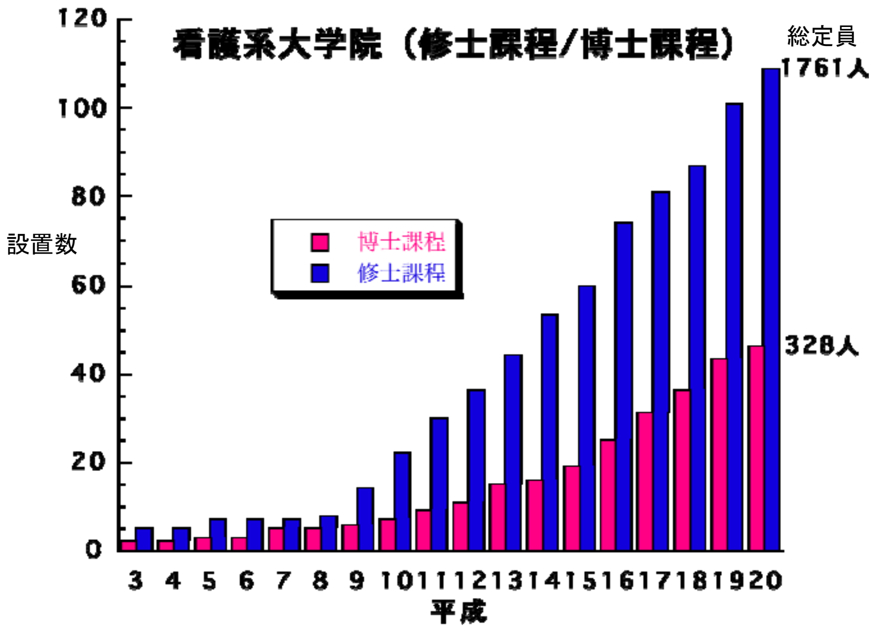

NP（裁量範囲の拡大）の導入
現行
医療行為
（診断・治療）
専門性：低い
NPの導入
専門性　高い
NP
専門性の高い医療行為


安全で安心なチーム医療サービスの提供
「安全」であるために
系統的な教育
「安心」であるために
信頼関係の構築

日本における看護教育の高度化

- **平成4年**
  「看護師等の人材確保の促進に関する法律」
  各都道府県に看護系大学の増加
  （国公私立大学）

- **平成21年4月現在**
  看護系大学（bachelor course） 178
  看護系修士課程(master course) 118
  看護系博士課程(doctor course) 54
  専門職大学院（advance course） 1



大分県立看護科学大学におけるNPの養成教育

NPとは

・高血圧症、糖尿病、慢性肺疾患などの
慢性疾患
・発熱、咳、下痢などの症状

を持つ患者に対して

●*包括的健康アセスメント*
（初期診察や一般的な検査）
●*医療処置管理*
（必要な場合には薬剤の処方）

プライマリケアを提供する看護職
健康増進からリハビリテーションまでの
サービスを継続して提供する

NPに必要とされる能力

- 包括的なアセスメント能力(簡単な検査を含む)
- 看護実践能力
- 医療処置管理の実践能力(簡単な処方等を含む)
- 看護管理能力
- チームワーク・協働能力
- 医療・保健・福祉システムの活用・開発能力
- 倫理観の醸成

[とくに強化が必要な能力]

3つのP
Physical Assessment
Pharmacology
Pathology

NPは、安全で安心な医療を提供できるか
―アメリカのNP養成課程との比較―

【アメリカ】	【日本】	
看護師(学士)	看護師	
実務経験	5年以上の実務経験	
大学院修士課程 500時間以上の実習	大学院修士課程 (43単位以上) 14単位(14週)の実習	実習(医師による実習): 総合病院の外来(10週) クリニック(2週) その他(2週)
国家試験		
免許の更新		

医療処置管理に関するカリキュラム（老年NP）

アメリカの大学のカリキュラムを参考にして
・ペース大学
・ケースウェスタンリザーブ大学
・カリフォルニア大学サンフランシスコ校
・ワシントン大学　等

	講義	演習	実習
フィジカルアセスメント学特論	2	2	14
病態機能学特論	2		
臨床薬理学	2	2	
診察・診断学特論	2		
老年疾病論	2		

NP(老年NP)がプライマリケアを提供する場所

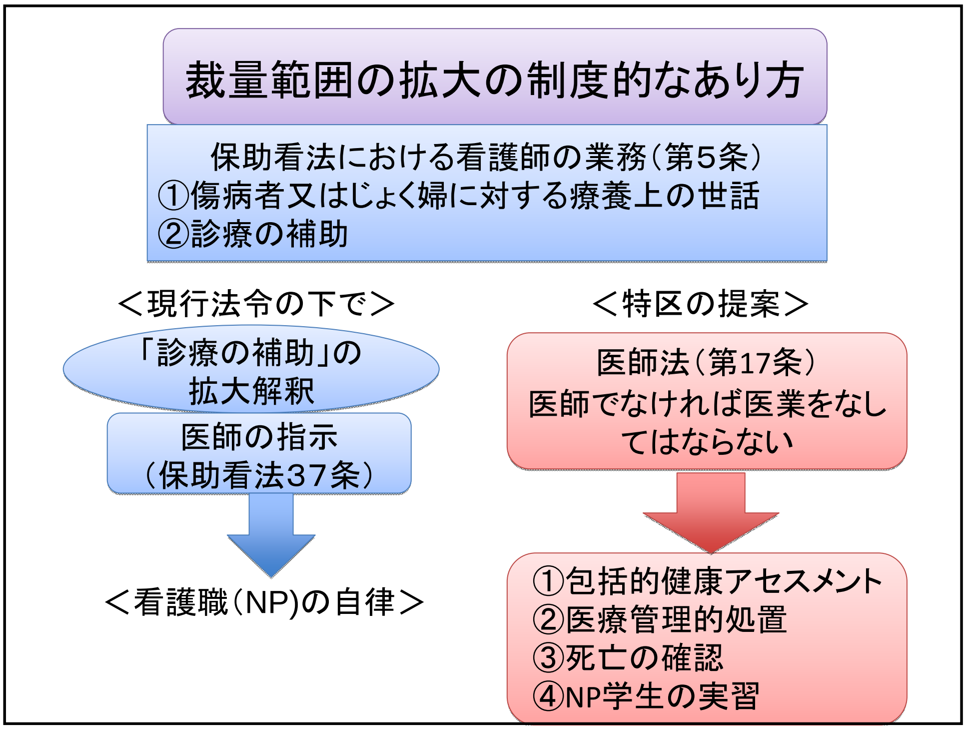
- 一般病院の外来
- 訪問看護ステーション
- 介護療養型老人保健施設
- 療養型病床施設
- 老人福祉施設
- その他

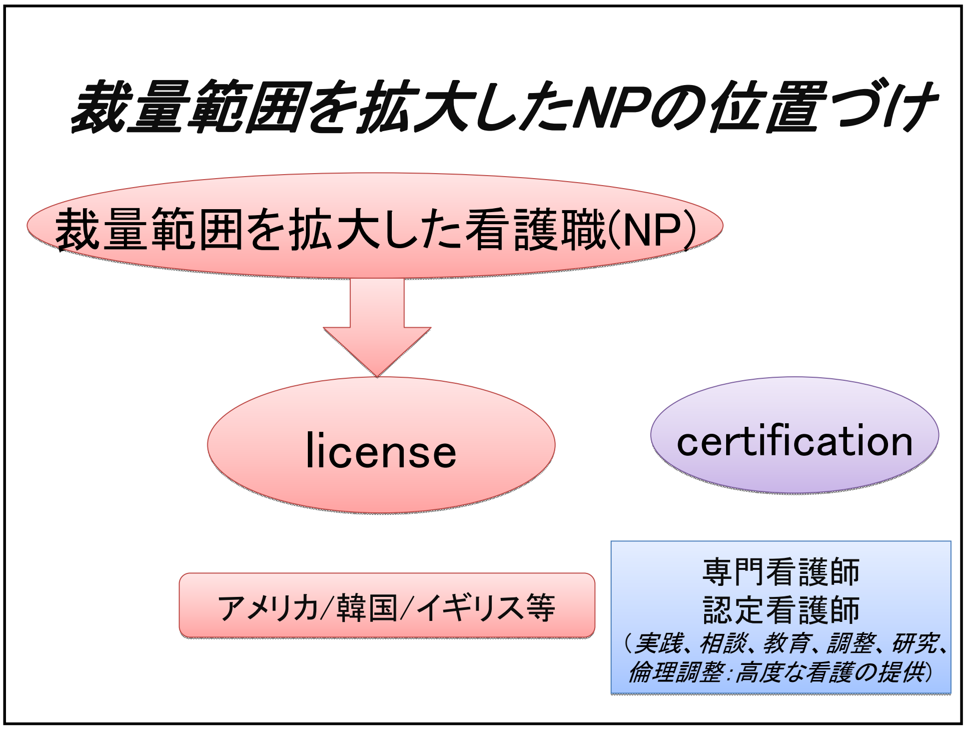
NPの養成教育の現状

- 平成20年　大分県立看護科学大学
- 平成21年　国際医療福祉大学
- 平成21年　聖路加看護大学（準備中）
- 平成22年　国立病院機構（準備中）

3. 何故、「特区」か

裁量範囲を拡大した
ナースプラクティショナー


裁量範囲の拡大の制度的なあり方
保助看法における看護師の業務（第5条）
①傷病者又はじょく婦に対する療養上の世話
②診療の補助
＜現行法令の下で＞
「診療の補助」の
拡大解釈
医師の指示
（保助看法37条）
＜看護職（NP)の自律＞
＜特区の提案＞
医師法（第17条）
医師でなければ医業をなし
てはならない
①包括的健康アセスメント
②医療管理的処置
③死亡の確認
④NP学生の実習


裁量範囲を拡大したNPの位置づけ
裁量範囲を拡大した看護職(NP)
license
certification
アメリカ/韓国/イギリス等
専門看護師
認定看護師
（実践、相談、教育、調整、研究、
倫理調整：高度な看護の提供）

4. NPの実現により何が変わるか？

国民の視点から

患者、家族の利便性

・公平な医療サービスの提供
　（無医地区の解消など）
・インフォームドコンセントの実質化
・24時間在宅診療の推進　など

医療従事者の視点から

看護職の自律
医師の労働環境の改善

↓

医療の効率化
医療の高度化、専門化の推進

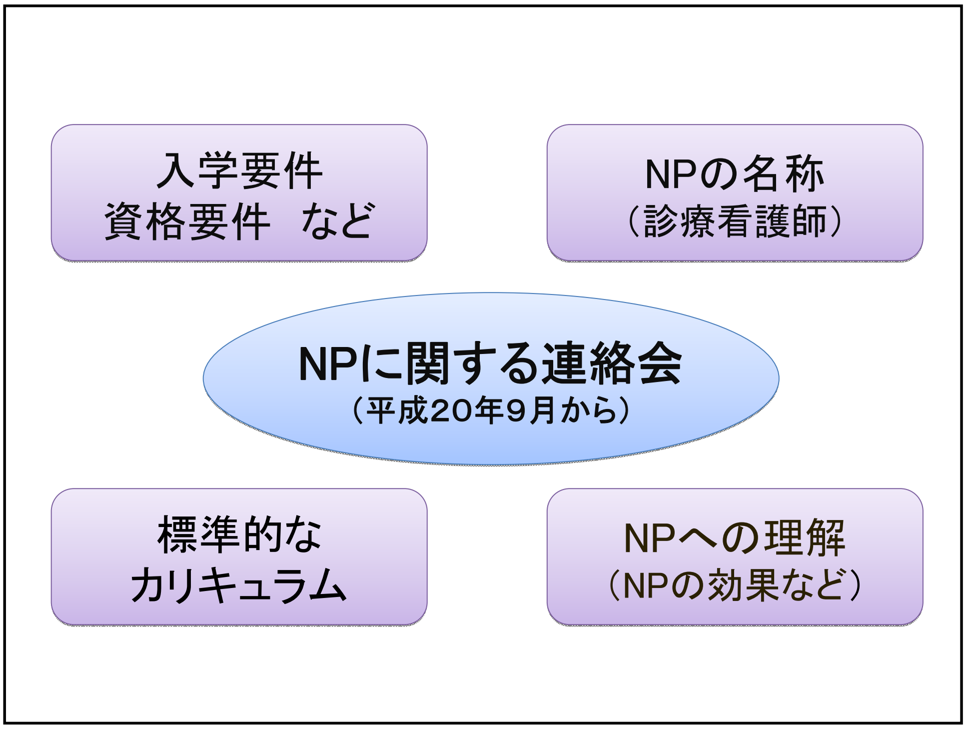
看護職の自律の必要性

看護系大学院の教育の実質化
キャリアアップの機会を提供

看護に対する魅力がより高まる
やりがい感を実感できる

看護師の確保
離職防止

18歳人口の減少
に伴う人材確保


入学要件
資格要件　など
NPの名称
（診療看護師）
NPに関する連絡会
（平成20年9月から）
標準的な
カリキュラム
NPへの理解
（NPの効果など）